



# 定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

## 第 17 期奨学生選考について

2024 年度が始まりました。今年度の奨学生選考結果に関する報告を申し上げます。

今回は計 14 名の出願者があり、4 月 3 日(水)に書類審査を行い、計 10 名に絞りました。4 月 7 日(日)、榎井委員、佐々木委員および私の 3 名で面接を実施し、厳正な審査と協議の結果、最終的に計 4 名の採用を決定しました。

4 名の内訳はブラジル・ルーツの男子 1 名、アメリカ/スペイン・ルーツの女子 1 名、中国ルーツの女子 1 名、それにウズベキスタン・ルーツの男子 1 名という結果で、いずれも成績優秀で将来のロールモデルとして期待しうるタイプの高校生たちです。ブラジル・ルーツの子は、T 市在住で、渡日歴が短いにもかかわらず成績優秀、アメリカ/スペイン・ルーツの子はカトリック系の教会が「宣教家族」として派遣してきた家族の一員という珍しいケースです。また、ウズベキスタン・ルーツの子は、K 大学の留学生として来日した母親が養育してきた来歴を持ち、ルーツを同じくする知人友人が皆無という、孤立しやすい環境で暮らしていることも留意して採用を決定しました。

他方、書類審査を通過した 10 名のうち 2 名が、面接試験の当日、試験会場に現れませんでした。彼らの中には、成績、渡日歴、経済的困窮度等においてかなり不利な状況にあり、サポートの必要性が高いという理由で敢えて面接に残した出願者等もいたのですが、面接を受けに来ない以上は選考対象から外さざるを得ませんでした。

また、出願者のうち、ネパール・ルーツやベトナム・ルーツの出願者もいたのですが、面接時の表現が今一つで採用には至りませんでした。この状況は今回に限ったことではなく、明らかに本人の責任ではない環境要因があるように思われます。今後の追求すべき課題の一つであろうと思います。

なお、今回はコロナ禍も一段落したということで、特にマスク着用はせず、対面で面接を実施しました。榎井委員、佐々木委員にはご協力ありがとうございました。

コロナ禍が終息しても、外国ルーツの子どもたちが置かれている環境の厳しさは続いています。引き続きみなさまのご支援をお願い申し上げます。

(実行委員長 樋口 大祐)

# 奨学生からのメッセージ

1 年生からは自己紹介、2-3 年生からは自分の好きなテーマで、卒業生からは高校生活を振り返って感想を書いてもらいました。

## G.V.さん(17 期生)

### 1. 自己紹介

私の名前は、G.V.です。中学校 1 年生の頃に来日し、それ以来日本に住み、日本の学校で勉強しています。今年、T 市の T 総合高校に合格していました。私はブラジル出身で、来日するまでには、大都市のサンパウロに住んでいました。にぎやかな日々が続く中で、ある日母親から日本に引っ越すことを告げられました。喜びと同じくらい不安をだいていました、日本語がわからないまま来日して、努力を積み重ねてきました。家族は 4 人で、父、母、妹と私で構成しています。他にも母国におばやおじなどいます。

最近で高校生活が始まり、どんどんと忙しくなってきました。また部活動も入部してもらい、頑張っって体力をつけています。朝が早いこと以外新しい生活はとても楽しいです。出身中学校の友達は少なく、最初は不安だったけれども、T 市内の中学校の人と友達になることができました。バスケットボール部に属し、先輩たちもやさしく接してくれています。

中学校時代、日本語はもちろんですが、部活動にも力をいれていました。I 中学校のバスケットボール部の副キャプテンとして活躍しました。残念なことに地域大会の時点で負けてしまい、3 位という成績しか残すことしかできませんでした。高校で県大会の上位まで行けるように頑張りたいです。

### 2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

前文で書いた通り、部活動に力を入れたいと思います。バスケットボール部で同級生たちと体力づけを頑張っています。走ったり、筋トレさせたりしてしんどいときはあります。けれども先輩たちから力をもらって練習をこれからも頑張りたいです。

勉強面では、大学進学に向けて頑張りたいです。大学は経済大学や言語大学に進学したいと思います。中学校で来日したので、やはり国語が苦手です。ですから高校で克服できるようになりたいです。将来は、リーダーシップが大切なことになると思います。ですから、リーダーシップをつけるために、高校で生徒会活動をしたいです。

### 3. 将来の夢

将来で就きたい職業は具体的なものはないです。けれども、経済大学や言語系の大学進学に進学したいです。それを目標として、高校生活を頑張りたいです。また、高校でしっかりと進学できるように努力したいです。総合学科に所属しているので、大学のすいせんなどがもらうことができます。すいせんを大学に行くことを目標にして高校で頑張りたいです。

## B.A.さん(17 期生)

### 1. 自己紹介

ルーツを持つ国は、ウズベキスタンです。

日本に来た時期は 2014 年、僕が 5 歳の時で、兵庫県の K 市 N 区に移住しました。

家族は、兄弟はいません。お母さんと一緒に日本に住んでいます。ウズベキスタンには、祖父母といとこ 6 人がいます。皆、首都のタシケントに住んでいます。

これまで、K 市 N 区 M 小学校を卒業し、U 中学校に進学しましたが、H 区の S 中学校に転校し、そこで中学校を卒業しました。高校進学では、現在、N 区の I 高等学校に行っています。

中学校では、男子テニス部に所属していて、K 市でベスト 8 になったことがあります。

僕は今、本を読むことが好きです。好きな作家はダレン・シャンでファンタジーの本を読むことが好きです。

僕は飛行機が好きで、将来航空機にかかわる仕事に就きたいです。

僕は旅することも好きで、特に岐阜県の馬籠宿というところが好きです。自然が多くて心と体が落ち着くところで良かったでした。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

勉強では現在、I 高校の特進理系コースを受けていて、特に数学、理科を頑張りたいです。

部活動は男子バレーボール部に入部しました。

高校入学したてで、たくさん友達はいませんが、これからはたくさん友達をつくっていききたいです。

ボランティア活動では全力で頑張り、将来につなげていききたいです。

高校生活の計画としては、大学進学を一番重視していて大学は東北大学の工学部に総合型選抜でいきたいです。そのため、勉強なども頑張りたいです。

3. 将来の夢

将来はアメリカの BOEING 社の航空エンジニアとして働きたいです。会社では主に新しい飛行機やロケットを作ってみたいです。

## K.K.さん(17期生)

1. 自己紹介

私は中国にルーツを持っている日本生まれです。家族は 4 人で妹が 1 人います。めっちゃ可愛いんです。中学校では女子ソフトテニスボール部に所属して、量産型女子をやっていました。

友達によく個性的だと言われます。自覚はあまりないですけど、多分他とは違うんでしょう。聞き間違いが多いので、何回も聞き返すことや、一人だけずれていることを言いはじめます。興味のあることは、にじさんじ、NIJISANJI EN です。NIJISANJI EN に関しては、聞き取れないことが多いけど、英語の勉強を頑張っていていつか全部聞き取れるようにするのが夢です。まだ単語とか全然覚えられていないですけど、まだ時間はたくさんあるので、ゆるゆる頑張りたいです。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

部活動はギター部に入部しました。本当に初心者でコードの読み方もわかっていないんですけど、伸びしろしかないと思っています。友人関係はできるだけ多くの人に話しかけたいです。友達は多ければ多いほど楽しいと思っています。勉強は中学校のとき宿題が全然なくて、勉強はあまりしてこなかったけど、高校は将来のためにも予習復習を頑張りたいです。ボランティア活動は参加したことがないんですけど、将来の夢の先生が全体の奉仕者のポジションなので、これもいい経験になると思っています。

### 3. 将来の夢

私の将来の夢は、中学校の先生です。中学校のとき支えてもらった側だったので、次は私が支えたいと思います。私は精神的につよいとはとてもじゃないけどいえないです。だからこそ、色々な人に共感できます。その能力にさらに磨きをかけるために留学に行きたいなと思っています。大人になるまで、多種多様な考え方を身につけたいです。絶対にめげません。

## R.I.さん(17期生)

### 1. 自己紹介

私は、アメリカとスペインのハーフで日本で生まれました。10 人家族、8 人兄弟の 2 番目です。生まれてから 2023 年の夏頃まで F 県に住んでいて、兵庫県に引っこして来てからもう少しで 1 年たちます。中学校は、ほぼ 3 年間 F で通っており、半年の間、兵庫県で通っていました。私は、人と関わることがとても好きでたくさんの文化に興味をもっています。自分のルーツのある国以外の文化についてとても知りたいという気持ちが強く、奨学生と仲を深めることを楽しみにしてきました。兄弟が多いことによって人間関係についてよく知り、たくさんの人と良い関係をたもつことが大切だと思います。自分とルーツのある国は異なりますが、私と同じ、外国人である立場の人と良い関係をつくっていきたいと思っています。

### 2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

主に勉強を頑張りたいと考えています。高校生になってから勉強をすることが難しく、苦手な教科を少しずつ「できない」から「できる」に変えられるように友達や先生と頑張ってきたので、これからも続けていきたいと考えています。

### 3. 将来の夢

私は、小3の頃から孤児院で働きたいと考えています。私のように家族がいない子どもたち、学校に行けない子どもたちを助きたい、サポートしたいと考えています。そして、彼らに最もふさわしい、大切にしてくれるような家族をつくってあげたいと思います。たくさんの文化を知ることによって、外国から来ている子どもたちも受け入れることができ、彼らも助きたいという目標を持っています。

## K.S.さん(16期生)

### 『学校行事』

六月十六日に文化祭がありました。中学校では、文化祭がなかったので、この文化祭は初めてでした。だから、クラスに入ってすぐに話し合いが始まった時は「こんなに早くから準備をするんだ」と驚きました。話し合いの時は、きちんと意見が出せるか不安だったけど、みんなが積極的に意見を出してくれたので、進行もしやすかったです。

私のクラスは学校の階段をデコレーションすることになりました。でも最初は階段のデコレーションがなかなかきまらなかつたりして、階段は紙に絵の具で和風のイメージでデコレーションして、華やかに仕上げることができました。先生から注意を何度かされましたが、前日の準備をみんなが頑張ったので、なんとか終わりました。色々な失敗が重なったり模型なども考えてたりして一生懸命に取り組みました。そこには、

デコレーションの仕方を教えてくださったり、サポートをしてくださった担任の先生がおられました。

最後に、今回の文化祭を経験して思ったことは、皆と協力し、助け合うことで、必ず大きな成果が出せるということです。人間が一人でできることは限られています。たいしたことはできません。そこに誰か一人が加わることで、何倍もの力が発揮できるようになります。今回の文化祭では、こうした仲間との交流が深まり、素晴らしい絆が生まれたように思えます。自分は1年生ですので、あと2回文化祭があります。来年も再来年も、今年以上に文化祭を盛り上げ、楽しみ、さらに多くの人達と絆を深めたいと考えています。

## G.K.さん(16期生)

### 『日々の楽しみについて』

私が好きなことや、リラックスするためにすることはたくさんあります。本を読んだり、音楽をきいたり、歌ったりすることです。でも、最近は小説を書くことです。

小説や本を読むのが好きです。これまで読んできた本の中で最も好きな本は「江戸川乱歩」さんの『少年探偵団シリーズ』です。なぜなら、ミステリーでありながらも「おもしろい」があるからです。「少年探偵団」と「怪人十二面相」が知恵を使って戦っている所が好きです。そして、最後に現われる「事実」についても驚かされます。

こんな本を読んでいるうちに、自分もこんな風読んでいて「おもしろい」と思わせるような本を書いてみたいと思うようになってきて、小説を書くようになりました。

まだ、小説を書こうとしたばかりなので、ミステリー系を書きたいのですが、まだどんなものをかけばいいかと思いつきません。なので、初めは自分が書きやすいと思う短編小説を何本か書いています。本などを見て、どのように始めればいいのか、話の展開はどうかければおもしろく書けるのかを考えながら書きます。

書き始めることで、小説を書くのは意外に難しいのだと知りました。登場する人物に一人一人名前を付けたり、その人がどのような性格なのか、どんな家庭で姉妹や兄弟はいるのか。また、この後どんな展開にするのか、どんな情景なのかを設定した上でないと書くのは難しいということを理解しました。しかも、どう展開すればいいか分からなくなったりすることも多々ありました。しかし、困ったことがあったりつまずいたりもしますが、自分が満足するようなものを書き上げられたときのすっきり感や、他の人が自分の書いた物語を「おもしろい」とほめてくれたときの「できた!」という達成感が好きです。

いつかは、江戸川乱歩さんの書いたようなミステリー小説を書いてみたいなあと思います。

## B.J.さん(16期生)

### 『学校行事と授業について』

私は父の仕事のかんけいで日本にきて一年半になりました。学校行事と授業について書きます。わたしは2年間のあいだにいろいろなことを頑張りました。

一番頑張ったことは学校のべんきょうと部活です。日本の授業とネパールの授業はまったくちがっています。ネパールでは9時から4時までですが、延長授業では8時までするじかんもあります。

日本の授業はたいへんむずかしいです。学校の部活動ではサッカー部に入りました。

サッカー部に入ったのは子どものときからやっていたし好きだったからです。サッカーをした時に怪我をしてもわたしはがんばりました。

学校からいろいろなところに行ってサッカーの試合もやりました。わたしは始めたときよりもサッカーができるようになり、たのしいです。

いまでは私は日本語もできるようになりました。

高校生になった一年まえには、日本語がわからなかったのでこまったこともありました。

クラスでは、みんな日本人だからべんきょうするのはむずかしかったです。

だから授業のときわからなかったところをともだちにきいたり、しらべたりしながらがんばりました。学校のせいせきはクラスでも上の方にいます。

私は一年生の時にがんばって400字ぐらいかんじを書けたり、読んだりできるように頑張りました。もっと日本語とかんじをおぼえるように、2年生でもがんばっていきます。

学校ではいろいろな行事がありました。一番よかったのはうんどうかいだとおもいます。その時いろいろなきょうぎをしました。

きょうぎをしたときには負けないように「早く走って」「早くしなさい」「なまえをよんだり」など大きな声でいろいろなことを言うのははじめてで、たのしかったです。

外国人のためには、この学校はいちばんよかったとおもいました。なぜなら先生たちはやさしく、わからない時やこまったときには先生からいろいろなサポートをしてくれました。

私の今年の目標はいろいろな人たちと会話をして日本語をもっとおぼえることです。そのために、がんばります。

## Z.S. さん(16 期生)

### 『最近の出来事～ラマダン～』

1 年に 1 か月しかないラマダンが来ました。家族は全員喜んでこの月を迎えています。

ラマダン知らない人たちに説明します。「ラマダン」とはイスラム教の断食月です。イスラム教が国教であるインドネシアでは、毎年「ラマダン」と呼ばれる行事が実施されます(世界中も)。ラマダンはイスラム教の五行のひとつである 1 か月にもおよぶ断食を行うものです。それを終えると、今度は「ハリラヤ」というイスラム教のお祭りがあります。断食の時間帯としては、日の出から日没のだいたい 14 時間です。夕方の日没時から翌朝の日の出までは飲食を許されています。夕方のアザーン(アプリから呼びかけの声)が家庭、あるいはモスク(イスラームの礼拝場)から流れると、これが飲食可能な合図になります。もちろん、断食の間中は水さえも禁止されています。僕の家族、父、母、兄弟は断食をしています。ラマダンの生活するなかで、私達のイスラム教の神様(アッラー)は多くの良いこと、幸せなこと、自分がうれしいと思うことや、色々な幸せなことを与えます。このラマダンをすることによってイスラム教徒は知っておかないといけないことがあります。それは貧しい人たちや戦争で食事があまり取れていない人、親がなくなった子どもたちの気持ちです。アッラー(イスラム教の神様)はそのためにラマダンという月を与えました。ですので、この月を大切に過ごし充実した生活が送れるようにしていきたいと思います。

自分にとって、ラマダンは、とても大切です。この月は最後まで勇気を持って乗り越えたいです。断食はつらいけど、その代わりいっぱい良いことがあります。僕は、イスラム教徒としてとても幸せです。イスラム教が大好きです。

**M.K.さん(15期生)****『住んだことある町について』**

私は香港人である父親の仕事や母親の教育方針の関係で 5 歳から 14 歳までの約 10 年間に香港で過ごしました。結論から言うと、私は香港に住むのがあまり好きではありませんでした。YouTube などの SNS で見る日本での生活にとっても憧れ、早く日本に住みたいと思うこともたくさんありました。

香港と日本はいろんな違いがあります。家の構造面で話すと、香港は人口密度がとても高く、部屋数を増やすために高層マンションがそこら中に建っていて、一つ一つの部屋がとても狭いです。この狭さがとても苦手で、日本に来るまではずっと自分の部屋を持つことに憧れを持っていました。香港の家の唯一の良い点は、床も壁も全てコンクリートとタイルなので、家でジャンプしたり、大きな声を出しても近所迷惑にはなりません。そもそも騒音にうるさいのは日本人くらいかもしれませんね。

次に大きな違いは気候です。香港は日本より結構南にあるので、暑さと湿気がすごく、湿度 100%も珍しくないです。家の壁や天井にはカビが生え、マンションのエレベーターホールの壁も水滴が滴ります。毎年 12 月頃の比較的湿気が落ち着いている時期に家族で家のかび掃除をするのですが、それがとても大変でした。

住居の面では、不便なことも多いですが、旅行に行く分には便利で、楽しい町だと思います。交通網がとても発達していて、バスや電車の本数もとても多く、全ての標識に英語が書かれているので観光客が困ることもないです。そもそも香港は狭いので、日本のように複雑な電車の路線はなく、シンプルで分かりやすいです。私も一度ほどしか乗ったことはないのですが、もし次に香港に行く機会があれば、屋根なしの 2 階建バスに乗って欲しいです!街にぶら下がっているネオンライトに当たりそうで当たらない感じがとてもヒヤヒヤして楽しいです。最後に、私はもう香港には住みたくありませんが、住んでいたからこそその土地独特の良さも知ることができたので、旅行では何度でも訪れたいと思います!

**L.X.さん(15期生)****『2 年生 3 学期の活動を振り返って』**

2 年生の 3 学期が幕を閉じた。この期間は私にとって、2 年間やってきた課外活動の果実を得る時期だった。取り組んだ研究もたくさんの発表の機会を得て、高校生活で作りあげたたくさんの人脈にも助けてもらえた。この作文で少し振り返ることによって、高校生活の課外活動に一区切りつける。

2024 年 3 月 17 日、私は高校 1 年生の時から今に至るまで取り組んできた ROOT プログラムの 2 年間の期間を完走した。ROOT とは、K 大学が主催する、将来世界で活躍する科学者を育成するグローバルサイエンスキャンパスの一環であるプログラムだ。この 2 年間は私の宝物だった。このかけがえのない日々を思い返すと、とても感慨深い。1 年目の基礎ステージは、毎週日曜日に大学の教授の専門性が高い講義を聞いたり、兵庫県内のさまざまな施設で最先端の科学技術を体験したりする 1 年間だった。そこで私の視野が広がって、自然科学の中にたくさんの分野があることを知った。先人の足跡を踏んで、新しいことを探求できる環境に身を置くことの有り難さも味わうことができた。

2 年目は、実践ステージである。1 年目で練り上げた研究提案を大学の教授にアドバイザーになってもらい、本格的に研究するものだ。この 1 年間に私に与えたものは数えきれない。私は色々学び、人生の幅を広げるとともに、大切な方々と出会えた。研究は 3 月に始めて 10 月に終えることができた。10 月から今年の 3 月にかけて、さまざまな発表会に参加した。去年の 12 月の末に、私は淡路島の国際会議場で行われる、アドバイザーの先生の研究室が主催する研究発表会に参加した。研究室で行っているイベントのため、大学生、大学院生そして博士の方がほとんどだが、私と同じプログラムで参加している高校生はもう一人いて、それが私の救いとなった。夜のナイトセッションでは、まさかのアルコール。考えてみれば当たり前だが、そのときは少し恐怖を感じた。果たして未成年が混ぜてもらっていいものか。当然研究室の皆さんは私たち二人の扱い方に困っていたに違いない。それでも誘ってくださった教授に感謝の気持ちしかなかった。そして翌日の発表で、最優秀プレゼンテーション賞をいただいた。また、丁度その期間で、シンガポールの友達が淡路島に遊びに来てくれた。発表会の途中で抜け出して、シンガポールの友達ともう一人のクラスメートと 3 人で淡路島を回った。しかし、その研究発表会の最後から 2 番目の発表が私を指導してくださった教授によるものだったので、見ないわけにはいかなかった。そこで、3 人で誰にでもバレないように、こっそり会場に入った経験は今でも覚えている。面白い経験をさせてくれた研究室の方々とシンガポールの友達に感謝する。

## K.R.さん(15 期生)

### 『写真部』

私は高校 1 年生の時から写真部に入っています。そんな私が愛してやまない写真部のことを話そうと思います。

まず写真部は 2 年生 15 人、1 年生 6 人と見た目は若いけど普通のおじいちゃんの先生とで文化部にしては多い人数でみんなでワイワイ楽しく活動しています。活動内容としては、他の部活を撮りに行ったり、イベントとかなどで呼ばれて撮影したりなど様々な事を行っています。春休みや夏休みなどの長期休みは少し遠出をして、遠征撮影に行き、みんなで見せあったりします。みんな楽しくて、優しく、可愛いくて、切磋琢磨し合える仲間です。ですが私が入部してからの最初の頃は先輩達が仕切っていた為活動も少なく、遠征活動などは一切ありませんでした。ずっとみんなはもっと活動数増やしたいね、後輩も入ってきたら絶対今よりもっと楽しく活動したいねと思っていました。それから夏休みから私たち 2 年生が中心になり、なにをしたいか全てピックアップし色々な事をして来ました。まず全部活を撮ることを目標に撮影をして来ました。それで沢山の思い出が出来て、みんなとより仲が深まり、色々な綺麗な写真が増えました。そしてその夏休みの撮影のお陰で写真スキルもグッと上がり、先生や親などに沢山褒められる様になりました。他にも夏休みはオープンハイスクールがあったりとワクワクな事があり、新入部員が増えるようにと 2 年生写真部オリジナルボードなど作って、写真部の魅力を最大限に伝えていきました。冬は元々学校の登校日数も少ないこともあり、活動日数も必然的に少なくなります。文化祭はどういう出し物をするのか、新入部員の勧誘方法や春休み中にお花見をしようと話がもう出ているので今からとても楽しみにしています。また 5 月には写真甲子園という運動部でいうと総体の様なイベントもあり、我々写真部は近畿大会出場を目指して頑張っています。私もそのレギュラーメンバーとして高一の頃から憧れ、出場を目指してスキルを上げてきました。ですが 5 月には文化祭があり、生徒会活動で最大の活動なので被ってしまい、レギュラーメンバーからは惜しくも外されてしまいました。ですが先生のご好意で私はチーム

のアドバイザーとして任命されました。写真甲子園はテーマ決めから写真構成まで未知数のことばかりで不安だらけですが、みんなの思いを背負って精一杯今ある力を出して頑張りたいと思います。もう半年もない少ない時間ですが、今ある時間を大切に、大好きな仲間と共に、相棒であるカメラと残りの青春の日々を写真で残していきたいと思います。

## O.Z.さん(14期生)

### 1. 高校を卒業して

高1の時は一番楽しい時期でした。学業のストレスもなく、友達をいっぱい作り、部活の友達と一緒に登校や下校をして快適な生活を送りました。

高2で一番印象に残ったことは、夏のコンクールで金賞を取ったことです。これは吹奏楽部に所属していた約6年間の間で唯一の金賞でした。三カ月間の練習を積んだ成果がついに金賞として花開きました。結果発表の瞬間喜びと感動で胸がいっぱいになり涙が止まらなかった。この喜びは一生忘れないです。

高3で一番つらかったのは受験でした。本番から半年前に塾を変わり、そこから必死に追い込みをかけて勉強しました。最後まで諦めずに頑張りました。努力が実って合格した時の喜びは、言葉ではとても表現できないくらい感動しました。

### 2. 今後の進路について

R 大学理工学部合格しました。

S 県にあるので、一人暮らしをしなければなりません。初めての一人暮らしなので、好奇心を持って頑張るって挑戦したいと思っています。

大学では TOEIC の勉強を始めたいです。就職のときに有力な武器として使いたいので頑張ります。

### 3. 後輩へのメッセージ

(国公立) 難関大学行きたい方へ

・塾に入る必要があります(できれば高2の夏から)

・部活動に関しては、制限はないけれど、運動部に入部したら運動も激しいし練習時間が長いのでとても大変です。退部(帰宅)時間も遅いから勉強時間が足りなくなる場合があるので、入部前にきちんと考えてください。

受験という道でお金がたくさんかかるのは当然のことです。ということは、この3年間の時間とかかったお金を無駄にしないように自分の目標を早く決めてそして目標に向けて頑張らしましょう!

## K.M.さん(14期生)

### 1. 高校を卒業して

高校1年生の時は、新しいことにたくさんチャレンジしました。

まず、同じ中学校の友達がいなかったなので、新しい友達をつくるために勇気を出して、自分から声をかけにいきました。そして、今まで楽器を習ったことがなかったけれど軽音楽部に入り、ギターをやり始めまし

た。高校 2 年生では、部活で初めて文化祭で演奏することになりました。大勢の前で演奏するのは初めてとても緊張したけれど良い演奏が出来てうれしかったです。高校 3 年生では、今までより勉強に力を入れました。高校生活で一番印象に残っているのは、最後の文化祭です。初めて全校生徒の前でギターを弾き、去年よりも難しい曲を選んだので、すごくプレッシャーがあったけれど仲良い友達が応援してくれたり、部員みんなではげまし合ったりしたおかげで、今までで一番良いパフォーマンスができてとてもうれしかったし、自分に自信ができました。

## 2. 今後の進路について

K 大学の社会学部に進学します。社会学部で特に学びたいのは、社会心理学で、人々が差別をする理由や心理を学び、少しでも差別で傷つく人達を減らせるように社会に貢献したいと考えています。また、大学入学後は留学したいと考えています。留学することで自分の視野を広げたり、外国と日本の差別に対する価値観の違いを学んだりしたいです。

## 3. 後輩へのメッセージ

高校生活で不安なことも沢山あると思うけれど、仲良い友達に頼ったり相談したりするなどしてあきらめずに頑張ってください。

## M さん (14 期生)

### 1. 高校を卒業して

私は高校 3 年生の担任の先生とても世話をさせていただきました。

最後まで私の高校卒業後の進路の話に付き合ってくださいから感謝しても足りません。行ける大学ではなく行きたい大学に行ったほうが悔いが残らないという話をしていただいたのもこの先生でした。その言葉にしたがい、最後まで行きたい大学にぶつかれて良かったです。結果こそ浪人することになりましたが、自分にとって有意義な一年でした。

高校 3 年間でもっとも印象深かったのは部活動の先輩達の引退試合でした。大会一回戦負けという結果で終わってしまったけれども自分達の努力と涙をすべてぶつけられて良かったと思います。先輩達とも仲が良く、今でも連絡とっている先輩も何人かいます。

この高校 3 年間でたくさんの人と仲良くなりましたが、でもやはり一番の親友は K さんでした。K さんは私が高校 1 年生の時から親友で同じ教室、同じ部活、住所も歩いて五分の所にありました。そのため、とても仲良くなり私がボケて、K さんがツッコミ、まるでお笑い芸人のようでした。彼も私と同じように今年浪人するつもりなので、同じ大学に行けることを望みます。

### 2. 今後の進路について

これからは浪人して、2025 年に良い大学に行けるように頑張ります。今後は毎日充実した浪人生活を送るように、ゲームや SNS は全て削除します。毎日眠る以外は全て勉強にあてたいと思います。浪人をする一年間がけってムダな一年間にならないように、全力で取り組み、今度こそ親が喜ぶように努力します。スポーツ推薦も来ていましたが、危ないという理由で両親に拒否されました。今でも少し根に持っています。

### 3. 後輩へのメッセージ

私のように両親が共働きで、自分で過ごす時間が圧倒的に多く、小さい頃からいじめられてきたような外国人の子どもたちに一言だけ言いたいです。「今、自分に起きていることは必ず未来成長するための糧となるため、絶対にあきらめず、生き抜いてください。」

私は今でも自分の小学と中学時代を悪夢だと思っていますが、しかし、それでも自分をあきらめずに良い高校に入ると世界は 180 度変わりますので、勉強することだけは絶対にしてください。勉強は自分を絶体絶命から引っ張り出せる唯一の武器です。